

聖書日課 『からし種』 2025.8.17~8.24

8月17日 (日) Ⅰ テサロ ニケ 4章	「このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。ですから、今述べた言葉によって励まし合いなさい」(17-18節)。いつかラツパが鳴り響き、主が天から降って来られ、死んだ仲間とわたしたちが一緒に引き上げられる(16-17節)…迫害のひどい苦しみ(1:6, 2:14)の中で、この希望を握りしめて忍耐したテサロニケの信徒たちを思う。
18日 (月) Ⅰ テサロ ニケ 5章	「“霊”の火を消してはいけません」(19節)。本章には信仰の諭しや励ましは豊かに綴られているが、その全てを成させるのは、きっとあのペンテコステの日私たちの内に降られたキリストの“霊”の火。この火を守るのは私たち自身の努力ではない。「傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない(マタイ12:20, イザヤ42:3)」主の僕イエスを常に覚えていたい。
19日 (火) Ⅱ テサロ ニケ 1章	「苦しみを受けているあなたがたには、わたしたちと共に休息をもって報いてくださるのです。主イエスが力強い天使たちを率いて天から来られるとき、神はこの報いを実現なします」(7節)。「休息」を、来臨の主の光に照らされた貴い希望として憧れる迫害下の信徒たち。今この世界でも、いつときの休息もなく絶えず心身を脅かされ続けている人々を思う。
20日 (水) Ⅱ テサロ ニケ 2章	「主の日は既に来てしまったかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい」(2節)。聖書に記された約束でさえも、言葉巧みに人の思想や計画の正当化に使われる危険はいつもある。テサロニケの信徒への2通の手紙には神秘的・黙示的な箇所が多いが、わたしがしっかり立ちたい場所はどこだろうか？

メール配信登録メール senforn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

21日 (木)	「わたしたちのために祈ってください。主の言葉が、あなたがたのところでそうであったように、速やかに宣べ伝えられ、あがめられるように」(1節)。「祈ってください」と頼む中にも「あなたがたの働きで、主の言葉が速やかに宣べ伝えられましたよ!」という感謝と励ましが織り込んである。話すにも書くにも、常に人を造り上げる言葉を使うことを教わる。
Ⅱ テサロ ニケ 3章	
22日 (金)	「わたしのこの命令は、清い心と正しい良心と純真な信仰とから生じる愛を目指すものです」(5節)。さまざまな思想や教えが流れ込んでくるエフェソの教会を牧するテモテへの2通の手紙では「良心」が信仰の拠り所のひとつとされている。それはきっと神に造られたままの心、世の煩いで一時は忘れても、十字架のイエスを思うとき再び心に沸いてくる思い。
Ⅰ テモテ 1章	
23日 (土)	「願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい…わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穩で落ち着いた生活を送るためです」(1-2節)。使徒書簡の随所で見られる、奴隷や女性に屈従を求める記述は、決して「時代だから仕方がない」と流せるものではないが、「教会が静まって祈ることから始めたい」という思いはあったのだろう。
Ⅰ テモテ 2章	
24日 (日)	「神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です」(15節)。なんと大胆な言葉だろうか。多くの欠けをもった人々の集まりである教会を「神の家」と呼ぶとは。パウロは人と人との間に働く「生ける神」を見ている。私たちがお互いの間に「真理の柱であり土台である神」を見ていく時、さまざまな欠けがあふれようと、そこに「神の家」が建てられているのだ。
Ⅰ テモテ 3章	